

FURUTECH

Review

福田屋 ケーブル / アクセサリー総集編

- JAPAN



フルテックの最高級電源プラグFI-50M (R) (¥26,250、写真左)とIECコネクターFI-50 (R) (¥26,250)の接点は、純銅ロジウムメッキ+α-Process処理。写真右のIECコネクターは、オヤイデの厚肉ロジウムメッキC-037 (¥7,350)

●FI-50を使う電源ケーブル2種類を作る
ステンレス切削加工の重量級
プラグを生かしたケーブル作り

フルテックの電源プラグFI-50シリーズの魅力は大きい。ステンレスケースは電流経路の材質・構造を確立した上でのプラスチックになる。電源パーツには、電流経路ではない部分の素材が意味を持つという不思議が健在だ。さて、このプラグにふさわしいケーブルはどんなタイプか。最高級品ゆえに、ケーブルの選択は5・5スケア導体で最高のレベルを引き出したい。そこで候補にしたのがPCOCC・A導体を採用の同属ケーブル、オヤイデTUNAMI NIGO



レファレンスとして評価しているIECコネクター、C-037の内部。ネジは非磁性ステンレス、高比重エンプラ素材ボディ、高剛性ポリカーボネイドカバーを採用。プラグのP-037も同価格

FI-50M (R) のボディはステンレス合金削り出して内部は特殊樹脂、外側をカーボンファイバーで仕上げた3層構造



POWERMAX8800にFI-50M (R)とC-037を装着したオリジナル電源ケーブル



アコースティック・リヴァイブのPOWERMAX8800 (生産終了)。PCOCC-A導体を5.5スケアの極太3芯キャブタイプ構造で採用する電源ケーブル。銅箔シールドを装備し、シースは高分子ポリオレフィン



TUNAMI NIGOにFI-50M (R)とFI-50 (R)を装着したオリジナル電源ケーブル



オヤイデのTUNAMI NIGO (¥6,300/m)。スピーカーおよび電源用の5.5スケアPCOCC-Aケーブルで、2芯キャブタイプ構造。電磁波吸収体、半導体層、銅箔テープを採用。外装はUVカットポリウレタン

GOとアコースティック・リヴァイブのPOWERMAX8800である。

アースは使わず無接続で製作
極太のケーブル2種を選んだ

POWERMAX8800を使う製作はプラグにFI-50M (R)、コネクターはオヤイデC-037を組み合わせた。このようない方でもメリットは十分得られる。ケーブルはアース付き3芯だが、コネクター側はアースを無接続とした。

TUNAMI NIGOでの製作は両プラグともFI-50を装着した構成。このケーブルは2芯構造でアースは内蔵しない。アースを使わないこともあるが、同じケーブルなら2芯の方が高域特性は有利に感じている。

製作で難しい部分は、5・5スケアの太い導体を端子に差し込む作業だ。太い芯線をきれいに通すのは簡単ではない。そこで剥き出した芯線をカッターなどで二分割し、固定ねじの両側に挿入する方法とした。

エージングを行って試聴すると
高解像度なクオリティを発揮した

FI-50は材質の質量で制振作用を発揮することも関係し、高クオリティでエネルギー密度を強化、質感は安定を深め帯域も広く得られる。ニュートラルな性質で解像度を重視した傾向があり、精度の高い音質性能が魅力になるだろう。

使い方はプラグだけに採用する方法でも効果があり、自作したケーブルがある場合、

プラグをFI-50M (R) に交換して試することもできる。POWERMAX8800で製作したケーブルは、高S/N、広帯域で繊細な解像度。フラット基調で洗練された純度の高い音質が得られる。クオリティが高く、低域の分解力も強力だ。十分にプラグとケーブルの価値を感じることができる。

ただ、製作直後の初期状態ではきこえない要素があり完璧ではない。24時間以上、3日ぐらいい時間が必要である。TUNAMI NIGOも同様だ。PCOCC・A導体や剛性の高い電極を使った製品は、真価を発揮するまでに時間がかかる。しかし、特別なエージング信号は流さないことにしている。高純度でシンプルなピアノ曲などを小音量で再生するのが、福田屋流である。

FI-50で統一したTUNAMI NIGOの音質は、低域〜中低域のエネルギーが豊かで陰影コントラストを高く表現。中域〜高域も厚く構成し、明晰で芯が強く、高解像度で力もある。明るい伸びのよさではPOWERMAXだが、エネルギー密度の高いクオリティではTUNAMI NIGO。FI-50で統一したメリットも発揮されるようだ。これも3日以上使い込むと純度を高め、音の輪郭もきれいに安定してくる。